

中学校 保健体育科 部会

部会長名 糸田中学校 校長 行徳 昭彦

実践者名 糸田中学校 教諭 遠江 寛

1 研究主題

体育的活動における学習指導と評価

～バスケットボールにおける活動の振り返りと分析的評価を通して～

2 主題設定の理由

(1) 指導観と本校の実態から

本単元であるバスケットボールは、バスケットコートの中の狭い範囲の中で攻守が入り交じった状態で生徒らは、ルールを守り相手とぶつからない、たたかないなど公正な態度でプレーすることを学ぶことができ、また、ボールを保持しているときと保持していないときで役割分担が変わり、ボールを持っているときはシュート、ドリブル、パスの優先順位で、ボールを持っていないときはゴール付近の空いているスペースに走り込むなどの判断力が瞬時に求められ、生徒の判断力を高めるのにとっても適した運動である。また、戦術を考える際に、自分の考えを実践してみようと思った理由やうまくいかなかった理由、そして、うまくいくためには何をしたらよいかをワークシートに書き個人やチームでの動きを改善していく思考力・判断力を高めるのに有効であると考え本主題を設定した。

本校に赴任して3年目になるが、ルールを簡素化し大きく掲示したり運動の仕方が分かるような手立てをとることで、運動が嫌いだった生徒が「運動が楽しくなった」と変化し運動に親しもうという生徒が少しずつ増えてきている。しかし、運動が得意な生徒でも器械運動で各技についてうまくいった理由やうまくいかなかった理由などを書かせてみたが、「できた」、「できなかった」という事実だけを書く内容が多く、なぜできなかったのかなど記述がほとんど見られなかった。そこで、本主題では思考力・判断力を高めるために今までに学習してきた基本的な動きからゲームに入る人数を増やしたときのボールを持っている人とボールを持っていない人の動きを自分で考え、その結果上手くできたか、できなかったかの理由を書き「なぜできたのか」「なぜできなかったのか」を明らかにすることをねらいにしたワークシートを用意した。今まで見られなかった生徒の感想から、ボールを保持したときや保持していないときの判断や友達との作戦や動きについて話し合いをした内容などを書くことを通して、思考力・判断力が高まると期待している。

(2) 保健体育の役割から

文部科学省より子どもの体力向上のための総合的な方策について(答申)において、学校における指導の問題について「学校における指導は、子どもが体を動かす楽しさを味わわせ、運動を好きにさせたり、普段運動しない子どもに限られた時間で効率的に運動量を確保するなど、子どもの体力の向上に関して重要な意味を持っている。中略 また、中学校・高等学校においては、スポーツの技術指導を中心にし過ぎたりするなど、楽しく運動させる指導の工夫が不十分であるとの問題が指摘されている。」と記されており保健体育の授業の中で生徒に体を動かす楽しさを味わわせると同時に運動を好きになり運動に興味を持たせることができれば、運動に親しむものが増えるのではないかと考えた。

球技の中でも、バスケットボールは常に動きながら状況を判断し、実行に移すという一連の流れが非常に短い間隔で切り替わる。その中で、自分たちの動きについて考え、実際に行動に移し、考えたことが実行できたか、それはなぜできたのかということ振り返る

ことで、生徒の体力の向上に加えて判断力や思考力を向上させるのにとっても有効であると考ええる。

生徒自身が、自分たちの役割を分担し、教師が設定したある状況の中ではどのような動きをしたらよいのかを学習し、お互いにその動きについて言ったり書いたりして評価しあえば今まで参加できなかった生徒についても運動に親しむ機会が増えるのではないかと考え本主題を設定した。

3 主題の意味

(1)「バスケットボールにおける活動の振り返り」とは

バスケットボールの個人的技能や集団的スキルを高める際に、他の人たちの行動を観察し、及び自らが体験したことについて課題や解決方法を考え、ワークシートに記入したり、話し合い活動をするを言う。その中で、自らの思考の過程を明確にし、どのようにすれば上手くできるのかを考える際の判断材料とする。これらの活動は、自らが経験したことや他の人たちの活動から運動する楽しさや友達と協力して活動しようとする意欲を高めることにもつながり、意義深いと考える。

(2)「分析的評価」とは

バスケットボールの特徴である複雑な動きを人数やコート of 広さ得点などを工夫し簡単にした活動を行い、個人、又は、集団で自己評価や相互評価を行うことを言う。その中で、自らの考えを相手に伝える活動を通して思考力を高めることができる。まず、さまざまな場面における自分の考えをワークシートに書き、実際に行動に移す。その後、実際に活動してみて考えたとおりにできたか、または、できなかったかをその理由と改善点までを個人やグループで考えさせその結果をワークシートに記入させる。最後にボールを保持している時としていないときの動きについて個人、又は、グループでどのようにしたらよりよくできるのかを分析させることを分析的評価とする。

4 研究の目標

体育的活動の中に活動の振り返りと分析的評価を取り入れ、運動する楽しさや中間と協力する中で運動に親しむ意欲や態度を高めるとともに、個人やグループで考え、話し合い、分析的評価を通して、ボールを保持しているときとしていないときにどのような動きをしたらよいかの思考力・判断力を高める。

5 研究仮説

活動の中で、活動の振り返りや分析的評価をすることで、運動が苦手なものであっても自分ができることを見つけ、そのことを自分の考えとしてワークシートに書くことで自己やグループの動きを見つめ直し、なぜ「できたのか」「できなかったのか」ということやその改善点がワークシートに見られるのではないかと。

個人やグループで動きを考え、実行し、改善点を見つける活動を通して、今まで参加できなかった生徒も動きが分かり、自己で考え・判断できるようになることで活動に積極的に参加する姿が見られるのではないかと。

6 研究の計画（授業の計画）

（１）単元 「バスケットボール」

（２）単元の目標及び指導計画

単元	バスケットボール		総時数	1 2 時間	時期	10,11 月
単元の目標	<p>球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守り、分担した役割を果たそうとし、作戦などについての話し合いに参加しようとする。 （関心・意欲・態度）</p> <p>攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できる。 （技能）</p> <p>ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身につけるための運動の行い方のポイントを見つけたり、自己のチームの課題を見つけ自分の言葉で書き表すことができる。 （思考・判断）</p> <p>球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解する。 （知識）</p>					
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点（援助・支援）		
一	3	<p>パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。</p> <p>ゴール方向に守備者がいない位置でシュートすることができる。</p> <p>ボールを持っている相手をマークすることができる。</p>	<p>・パスドリル、ドリブルドリル、シュートドリルを行う。</p> <p>・ストライドストップ、ジャンプストップをしてシュートをする。</p> <p>・1対1の場合、ボールとゴールをつないだ線上に守備位置を取る。</p> <p>・ゴール下のシュートを練習する。</p>	<p>・トラベリング、ダブルドリブルなど個人のバイオレーションやパーソナルファウルについて毎回掲示物を貼ることで押さえさせる。</p> <p>・ルールを簡素化したゲームを行い、ゴール前でボールを保持したときの判断力やディフェンスのコツを押さえさせる。</p>		
二	5	<p>マークされていない味方や得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。</p>	<p>・2対1のゴール下での攻防を行う。</p> <p>・ドライブインとの合わせについて理解し、2対1のゴール下での攻防を行う。</p> <p>・カットインについて理解し、2対1 / 2対2の</p>	<p>・ボールを保持した場合、優先順位として、シュート、ドリブル、パスの順で行動することを共通理解させる。</p>		

			攻防を行う。	
三 時 2 / 4		ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身につけるための動きのポイントを見つけることができる。	・高い位置・低い位置でヘルプされた場合についてボールを持っていない人の動きを理解し、実際に3対2 / 3対3の攻防を行う。	・ボール保持者がディフェンスに止められた際、ボールを持たない人がどのように動くのかを、高い位置と低い位置の2つの場面を設定し考えさせる。
		自己やチームの課題を見つけることができる。	・5対5のゲームを行う。	

7 指導の実際

(1) 平成23年11月9日 水曜日 第1学年3組 第5時限 体育館

(2) 本時の指導観

生徒がこれまでの学習で獲得した技術や知識を利用して、高い位置（ハイポジション）や低い位置（ローポジション）でヘルプ（ディフェンスに囲まれた状態）されたときについて、チームでお互いの攻める姿を観察し合い、そこから、高い位置でヘルプされたときにはゴール前の空いたスペースに走り込んでパスをもらいランニングショットに持ち込んだり、低い位置でヘルプされたときには、フリースローライン付近の空いたスペースでボールをもらいジャンプショットに持ち込むことが望ましいということを、実際に活動する中でチームメイトと話し合い、理解することがねらいである。

(3) 主眼

攻撃の際に空いたスペースに走り込む動きについて、高い位置と低い位置でヘルプされたときについてチーム同士でお互いを観察することを通して、ボールを持っていないときにどのような動きをしたらよいのかを話し合い、実際に行動に移すことができる。

(4) 準備

バスケットボール4球、ピプス30枚、得点板2個、デジタルタイマー、ワークシート、作戦ボード6個

(5) 展開

	学習活動・内容	教師の支援・援助	評価規準・評価方法	配時
導 入	出席確認のあと準備体操をする。	見学者の確認と授業中の指示を出す。		5
	前時の活動を振り返り、本時のめあてを確認する。	本時の流れに見通しを持たせる。		
	高い位置と低い位置でヘルプされたとき、チームでボールを持たない人の動きを確認し合い、実行しよう。			

展 開	高い位置と低い位置でヘルプされたときについて 実際の状況を確認し、前時までに考えた自分の意見をチームに伝え話し合う。	作戦ボードを利用し、前時までに行った2対1のゴール下の攻防を思い出させ、ボールを持っていない人の動きについて考えさせる。	10
	話し合った内容を、3対3のゲームで実行に移す。	前時に行った、2対1の動きと変わらないことを生徒に伝え、人数が増えてもボールを持たない人の動きが重要であることを伝える。	25
ま と め	後片付けを行う。 本時の振り返りを行い、個人のワークシートに記入する。 次時の確認を行う。	「パスを受けやすい位置に動く」「左右へ動き、防御者を振り切ってボールを受ける」など 「できた理由」「できなかった理由」を明確にし、なぜできたのか、できなかったのかを考え、改善点まで書けるように指導する。 また、そのような思考に導けるようなワークシートを用意する。	10
		ワークシートに記入させる。(思考・判断) 予想される回答 高い位置でヘルプされたときについて ゴール下でパスをもらおう。カットインする。 ゴール下に走り込む。 低い位置でヘルプされたときについて フリースローライン付近でパスをもらおう。 ボールを持っている人の後ろでパスをもらおう。ドライブインへの「合わせ」の動きなど	

8 研究のまとめ

(1) 本授業について

「活動の振り返りと分析的評価を通して」という研究主題を立てて、生徒の思考力・判断力を高め評価することを目的とした授業づくりやワークシートを工夫した。これまでは、授業のめあてに対する感想に「～ができたのでよかった」「楽しかった」などの記述が目立ち学習のねらいとする動き方のポイントや工夫などが書かれていなかった。

そこで、ワークシートの工夫として振り返る際に自分自身が振り返るプレーを限定した内容にし、「できた」「できなかった」で終わるのではなくその理由を具体的な動きで書くことを指定した。これまでは、あまり具体的な動きについての記述が感想で見られなかったのだが、今回の授業では、28人中20名の生徒に具体的な動きについてのポイントが書かれていた。まだまだ十分な結果とはいかなかったがさらに改良を加えて全員が動きのポイントを書けるような手立てを考えていきたい。

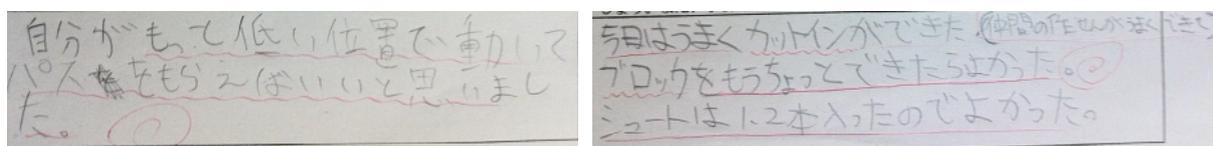
次に、話し合い活動について、前時に考えた自分の意見をグループ内で発表し各チーム

の特徴にあった作戦を考えさせた。生徒達は、事前にカットインプレーとドライブインへの「あわせの動き」の二種類の攻撃パターンを学習していた。作戦を考える際には、あえてプレーを限定せずに話し合いをさせたため活発な話し合い活動になった。しかし、最後の作戦が成功したのか、それとも成功しなかったのかを判断する基準が曖昧になり困っている生徒がいた。今後このような授業をする際には、達成できたのかできなかったのかを生徒自身が評価できるような基準を提示していきたい。

9 成果と課題

成果

1・2年次において基礎的な動きを学ぶ際に、ある特定の条件を決めて複数人数での攻撃方法を考え実行に移すという段階的な指導は、生徒一人ひとりが理解しやすいだけでなく思考力・判断力を高める手立てとしても有効であった。下図からも分かるとおり具体的な内容で授業を振り返ることができた。



図：生徒の感想より

話し合い活動で、作戦ボードを使用したことにより、生徒の考えが可視化できた。

課題

本授業のめあてにあった「お互いの動きを確認し、実行する」ところを自己評価する際に、チームで話し合った作戦が成功したのかどうかを生徒が判断するポイントが提示できておらず迷っていた生徒がいた。生徒にもっと明確なゴールを示せるめあてと手立てを考える必要があると感じた。

思考力・判断力を評価するワークシートの工夫では、1年生ということを考慮し動きのポイントを書く際に「書き方」を指定したものを用意すると具体的な内容が書けなかった8名についてもっと違った内容になったのではないかと考え、ワークシートの改善が必要だと感じた。

活動の場所づくりについて、ハーフコートを使って3対3をしたのだが、1チーム5人ずつだったため参加していない時間が長い生徒がいた。運動量を確保するためには、コートをもう少し狭くする必要があったと感じた。

作戦ボードについて、攻撃側のマグネットは準備していたが防御側のマグネットがなかったため動きをイメージできない生徒がいたので、準備したい。

最後に、授業規律について髪の長い生徒については安全面からも必ず結んで参加させるようにする。また、集団行動の動きを一つ一つ丁寧に行うことをすべての授業で徹底し、今後の授業づくりにおいてより安全に、そして、規律のある内容にしたい。

参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』

国立教育政策研究所 教育課程研究センター

『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための資料(中学校 保健体育)』